



# 四 気 折 々

川越町立川越中学校  
「学校だより」  
第41号  
令和4年12月23日  
第2学期 終業式

四気＝川越中学校訓 「やる気 ほん気 こん気 げん気」  
学校教育目標 『自立した生徒の育成 -自律・調和・創造-』

## 2学期のいっぱいの成果！

体育祭や文化祭はじめ人権学習、クラストーク。2学期には多くの成長の場がありました。山口颯一さんの「いのちの大切さを考える講演会」から見える、みなさんの成長。それは『自分事』として考えられる気持ち。そして『受け入れること』、『関わること』の大切さを考えられること。これは「心の成長」です。3学期のみなさんが楽しみ！

12月12日の1・2限目は「いのちの大切さを考える講演会②」として、一般社団法人 ELLY 代表の山口颯一さんを講師としてお招きし、『いのちの大切さを考える講演会②』として、「性別って2つだけ？ ～多様な性のあり方～」というテーマのもと講演をしていただきました。川越中学校が大切にしている「いのちの大切さを考える講演会」は「出会い学習」でもあります。講師の先生の「生き方に触れてみる」。そして周囲の人や仲間のこと、自分のことをしっかりと考えるきっかけにする。出会いを通じた講演会から「いのちの大切さ」や「自分らしく生きること」を考え、気づき、そして自分事として受け止め、学んでほしい。子どもたちの素直な振り返りからは、自分事として多くの子どもたちが受け止めていた内容。その子どもたちの言葉を「学級通信」、「学年通信」としてつないでいただいた担任や学年の先生方。先生方の生の声からも、今回の講演会が、子どもたちの「たしかに生きる学びの場」となったこと。山口颯一さんとの出会いが「子どもたちの心の中にしっかりと残ったこと」。そして、「自分と重ねて考えることができたこと」がよくわかりました。

### 【子どもたちの感想のほんの一部を抜粋して】

- ◆自分が友だちからLGBTに関する相談を受けたときは、拒絶したりするのではなく、まず相手を理解していきたいと思います。理解することでより相手を知ることができて、友だちの本音も聴けると思うし、相談もしやすくなる。まず、相手を理解して受け入れることから始めていきたい。
- ◆「LGBTQ」にかかわる内容はもちろんのこと、このことだけの話しじゃなくて、これは、ほかの特徴を持った人、人種や民族が違う人でも「受け入れる」ことで、関わるができるのではないかと思います。多くの人、いろんな人との関わりの強さが、本当の楽しさをつくれると思いました。
- ◆私たちが、山口さんの内容から学んでいかななくてはならないのは、理解するということと、みんなに安心して話すことができる環境をつくるのが大切だと考え直すことができました。けれどこれは、LGBT、性同一性障がいだけの問題ではありません。他のどんな悩みでも同じです。みんなに伝えられなくても、誰かに少しでも話して安心できるような、クラス、学年、全体でも個人でも、そういう雰囲気をつくれるようにしたいです。
- ◆自分の特徴を強みに変えるという考え方は、ぼくにはなかったから、知ることができてよかったと思います。今日はこれから生きていくのに関係することばかりだったから、今日学んだことは、大切にします。
- ◆自分もどちらかという、周りに相談できる方ではないけど、気軽に話せる友人がいるので、勇気を出して話してみようと思うきっかけにもなりました。そして自分が相談されるような人間になりたいと思いました。



川越中学校ホームページを、いつもご覧いただきありがとうございます。  
これからも、川越中学校の子どもたちの一生懸命をいっぱい伝えていきます！  
『学校と家庭と地域を結ぶ』ひとつのきっかけとなっていくことを願っています。

なかなか先が見通せないコロナ禍。保護者の皆さまや地域の皆さまに学校の様子を、子どもたちの日常をなかなか見ていただくことができないもどかしさがあります。だからこそホームページでは、川中で学ぶ「子どもたちの日常が当たり前のように毎日見ることが出来る」を目標に更新しています。2学期9月1日で「3, 372, 270件」のアクセス数が、12月22日(木)の21時で「3, 681, 418件」というように、みなさんにいっぱい応援していただきました。

## 「親の背中を見て子は育つ」

親は子の鏡であり、親の考え方や価値観、行動などの影響を受けながら、子どもが成長していくことを意味することわざです。

私の父は、昨年12月上旬に肺炎で入院をしましたが、このコロナ禍においては、家族も病室に入ることができず、傍らに寄り添うこともできないまま12月24日に帰らぬ人となりました。なかなか自分のことを考えたり、振り返ったりすることもなく、ただただ毎日が精一杯の1年前の自分。

そんな時、このことがきっかけとなって、私自身が父の姿を通して何を学び、何を大切に考えるかを、見つめ直す機会ができました。

父は、頑固ではありましたが、正義感が強く、実直でまじめが取り柄でした。読書が好きで、母と営んでいたトマトの生産では、味の良い品にするために多くの文献を調べ、具体的に改善するために学び続けるなど、知的好奇心の旺盛な面を持っていました。

しかし、その人生においては、岐阜県の田舎の土地で代々続く家で6人きょうだいの長男として生まれ、戦争時に私の祖父が早くに亡くなってからは、青年時代より家族の柱としての役目を背負うなど、多くの苦労があったことを叔父や叔母から聴いています。

今になって思えば、学ぶことが好きだった父には、自分のやりたかった学問のための進学をするという道を選択できる人生ではなかったのだと思います。

同じく、長男として生まれた私も、昔で言うところの跡取りではありますが、決して楽ではない経済状況の中で、進学をあきらめようと悩んでいた高校3年の春だったと思います。父は私の進学に際し、「お金のことは気にせんでいいから、大学に行って先生を目指せ」と私のやりたい道を後押ししてくれました。

そして、大学卒業後に岐阜の実家に戻る選択をしなかった時でも、私が三重県で教員として働けるようになったことを大変喜んでくれるなど、どんな時でも、私の考えに耳を傾け、共感し、私が進みたい道を応援し続けてくれました。

今、私は2人の子の父親であり、また、新任校長としての立場となりました。自分の子どもたちだけでなく、先生方、子どもたち、そして、保護者の皆さまに対して、自分の背中をどう見せていくか。

しかし、経験のある校長先生方と今の自分をつい比較をし、自分のできなさ加減に不安になったり、迷ったり・・・心に余裕がなくなってしまう自分がいます。そんな時、自分を勇気づけてくれるのは、毎日の学年通信や学級通信に記載されるみなさんのコメントやメッセージ。一生懸命な子どもたちの姿。そして、子どもたちに一生懸命に全力で寄り添う先生方の姿です。そして、そんなときの自分の指標となるのが、やはり父の背中であると感じています。

人の幸せの分岐点は、その人の幸せを自分の幸せと受け止め、誰もが持っている可能性を応援し、支え、背中を押してくれる父のような存在に出会えること。

まだまだ道は半ばですが、私も人の幸せの分岐点の1つとなれるよう、父が私にくれた名前の一字でもある「志」を大切に、自分の夢に向かって、今を成長していきたいと思えます。

川越中学校 校長 田口 佐登志

川越中学校に今年度、校長としてお世話になり、学校だよりやホームページを通じて、子どもたちと先生方が一緒になって学校づくりをしている姿や頑張っている姿をいっぱい紹介してきました。とにかくみんなの頑張りを伝えたい一心で。でも、自分のことはまったく伝えていなかったなあと。本日の3年1組の学級通信に、担任の田中邦拓先生が、私(校長)の今の想いを記載してくれたことがきっかけとなって、2学期の最後の通信に「今の自分のことを知ってもらおう。語ってみよう。」と思いました。いま、1年生でも、2年生でも『クラストーキング』が行われています。『クラストーキング』を通じて成長していくみなさんを、いつも学級通信・学年通信を読みながら、心から応援しています。頑張れ川越中学校の生徒のみなさん！頑張れ川越中学校！